

つながり若者センター通信

2025

12号

9月発行



「つな若」が活動を始めて5年目になりました。なんで「つな若」なの？とぜひ聞いてほしいのですが、紙面なので聞かれてもないけど書きます。

なぜ「支援センター」にしなかったのか。
若者らはそれぞれ自分なりの生き方感をもっている。けれどそれがあまり安全でなかったり、その通りに進まなかったりすることが多々あることも現実。そこに「ザ・支援」という人らが入ってくると、その強さに「自分なりの力」を引っ込めたり、変な方向に力を出そうとしたりする。

だから「ザ・支援」よりも大事なことで、「つながる」ことを喜びあえるセンターにしたい。これは、若者らの声を聴きながらかかわってきたスタッフの願いであり決意でした。そんな「つな若」。若者らを理解し、自立を応援する方々ともっともっとつながっていききたいと思います。

「専門性高く、敷居低く」が目標です。これからもよろしくお願いします。

つながり若者センター センター長 谷口郁美



朝ドラ『あんぱん』を観て

つながり若者センターで仕事をさせてもらって約4年になりました。たくさんの人と関わらせてもらい充実した日々を送っています。私の毎日の楽しみは、子どもが寝静まった後にインターネットで朝ドラのあんぱんを見ることです。やなせたかし氏をモチーフにしたドラマですが、幼いころに父を亡くし、兵士として戦争を経験するなど大変な人生を送っています。ドラマの中で彼の代表作アンパンマンが登場するのは後の方で、彼の苦悩や人との出会いが描かれていく中で、年を重ね、やがて代表作が誕生するのです。

私がドラマを見て感じることは、日々様々な苦労がありますが、後になって意味が分かることがあるということです。若者との関わりにおいて悩むことは多いですが、その時は分からなくても、出会えた人たちの顔や言葉、一緒に経験したことを思い出して、後で気付くことがあります。そのような大事なつながりを今後も増やしていけたらと思っています。

九鬼



職員紹介



中島 円実

電車で一人旅が大好きです。若者と一緒に成長できればと思います。



田中 裕子

この夏は高校野球と音楽フェスを楽しんでいます。みなさんの「好き」はどんなことですか？
その方の「好き」を一緒に味わえたら嬉しいなと思っています。



九鬼 良

一生懸命頑張りたいと思います。よろしく願いいたします。趣味は色んなところに出かけることです。



池畑 賢太郎

「受験が終わったら一緒にしよう」と若者に言われ、映画「小林さんちのメイドラゴン」を楽しみに待っています。



藤岡 駿

今年こそは減量を頑張るぞという気持ちです。行動が伴うようになるには時間がかかりそうですが…健康に気を付けて頑張ります！



新地 有里子

まだまだ未熟なところがたくさんありますが、精いっぱい頑張りたいです！化粧品を集めることが好きで毎シーズン何を買おうか考える時間を楽しんでいます！

新しいスタッフよりご挨拶

今年度6月から、つながり若者センターに配属となりました新地と申します。新しい環境でまだ慣れないことも多いですが、日々の関わりの中で少しずつ学びを重ねています。

その中で特に感じたのは「人とのつながり」の大切さです。先輩方は本当に多くの方と顔の広いつながりを持っていて、そのネットワークを活かして若者を支えておられます。その姿を見ると、支援の引き出しがたくさんあることの心強さを実感します。

私自身はまだ経験が浅いですが、一つひとつの出会いや関わりを大切にしながら、自分なりにつながりを広げていきたいと思っています。人とのつながりを通して学び、成長し、少しでも若者の力になれるよう努力していきたいです。

新地



連絡先 つながり若者センター（滋賀県地域養護推進協議会）

▶マザーボード
守山市守山6丁目10-108
TEL：077-582-2221 FAX：077-582-2330

▶コージータウン
彦根市大東町2-28 アルプラザ彦根4F
TEL：0749-21-6370 FAX：0749-21-6205

活動報告

つな若 ダイニング

つな若若者センターマザーボードでは、毎月1回「つな若ダイニング」として、若者に夕食を提供しています。メニューを決めるときはレシピサイトを参考にしますが、そこに書かれているのは2人前や4人前。実際には16人前ほど作らないといけないので、数字を掛け算すると「人参5本？エリンギ14本？トマト缶8缶！？ほんまにこんなに要るん？」と、買い物前からすでに不安が押し寄せてきます。スーパーで山盛りの食材をカゴに入れながら、「これ全部使い切れるのかな...」と心の中で何度もつぶやいてしまいます。けれど、いざ調理して食卓に並べると、大量に思えた人参もエリンギもトマト缶もきれいに消えてなくなります。若者たちが「おいしい！」と笑顔で食べてくれる姿を見ると、不安は一瞬で吹き飛び、「作ってよかったな」と心から思えるのです。

食卓を囲むことで生まれる安心感や会話、そして何より笑顔。それこそが「つな若ダイニング」の魅力だと感じています。これからも買い物ついでに不安になりつつ（笑）、にぎやかであたたかい食卓を大事に続けていきたいと思っています。

新地

居場所活動について

つな若若者センターでは、マザーボードで月に2回、コージータウンで月に3回の居場所活動を実施しています。活動では、一緒にボードゲームをしたり、近所を散歩したり、時には一緒に料理を作ったり...

同じ時間を共有して会話が広がって関係性が出てくることもあれば、他愛ない時間を過ごして日々の疲れを癒したり、みんな思い思いの時間を過ごしています。掲載されている写真も、居場所活動で調理したり、食べたり、作ったりしたものです。

休みの日や仕事帰り、誰かとちょっとおしゃべりしたい...。そんな時にふらっと立ち寄って、若者にとって少しでものんびり出来る時間、居場所になればいいと思います。



コージータウン 居場所

コージータウンの居場所では、彦根城など彦根駅近くを散歩するおさんぽ会、若者たちが思い思いの時間を過ごす交流サロン、一緒にタゴ飯を囲む夜の食堂を開催しています。

おさんぽ会では彦根城を散策し「実は彦根城に行ったことがなかった」という声を聞きながら、自分が住む地域について触れることが出来ました。外が暑くなってくると、おさんぽは一旦お休みし、室内でヨガを体験することもありました。

夜の食堂ではコージータウンカフェの協力のもと、若者と一緒に美味しいごはんを和気あいあいとした雰囲気の中で頂いています。仕事や学校の疲れを癒したり、誰かに話を聞いて欲しかったり、美味しいご飯を食べたかったり...。いろいろな想いの若者が集まって、のんびりした時間を一緒に作っています。

日々を頑張っている若者たちが「今日はつな若の居場所に行って楽しかったな、疲れが取れたな、明日も頑張ってみよう」と思えるような居場所を目指していければと思います。

藤岡



全体会ご報告

7月1日（火）午後、長寿社会福祉センター第1研修室にて、令和7年度滋賀県地域養護推進協議会全体会・研修会を開催しました。前半では、令和6年度の実績報告・収支決算と令和7年度事業計画・収支予算について、また滋賀県地域養護推進協議会への新規参画会員についての報告や、つな若若者センターの活動状況の報告をしました。そして、参加いただいた会員の取り組みについての情報交換や課題の共有も行いました。つな若若者センターの活動報告では、普段理解してもらいにくい相談支援について、いろんな若者の支援の中での具体的な関わりや課題について図解した資料をメンバーで作成し、みなさんに見ていただきました。

後半は、滋賀県立大学の原未来准教授をお招きし、『若者支援における居場所の意義』について、ご講演と、参加者同士の意見交換を行いました。原先生からは、「苦しい状況にあるかもしれないのは一部の特別な若者だけではない、若者世代を支える、という意識で取り組む必要がある」とのお話がありました。多様な若者のいろんな価値観を、相談支援や居場所など若者との日常からこぼさずくいく取るスキルと、それを反映させていく仕組みが求められるのだと痛感しました。



「相談してね」の前に

「相談してね」と私たちはよく若者に伝えています。それでも「早く言ってくれたらよかったのに」ということがよく起きます。「受け止めてもらえる」「変だと思われない」「秘密を守ってもらえる」そんな安心感。「忙しそうだし」はもったいない。「何をどう言えばいいか」を整理する余裕がなかったか。「相談すべきこと」「困っている」と思ったのかどうか。こうしてみると「話してみよう」には色々準備がいるものですね。

そうなると定期的に会うくらいの枠づけ、場づくりの意味を感じます。「わざわざ言うほどのことでもない」かも知れないけど、「つぶやいてみただけ」を拾えるようつな若での個別相談支援や居場所作りになっていったらいいなと思います。またそんな居場所がつな若に限らず若者の周りにいくつもあると、色々な場面でのちょっとした会話や態度のなかで「話してみよう」を少しずつ育てていってくれるかなと思います。

池畑